

ホスピスボランティア

快晴。朝から少し緊張している。今日は週1回のホスピスボランティア活動の日だ。

エプロンと名札を着けると私は「活動モード」に切り替わる。ラウンジに向かい、BGMをかけてコーヒーを沸かした。10分もしないうちに病棟が香りに包まれる。病室からSさんが登場。「コーヒーの香りに誘われて出てきた。1杯ごちそうしてけれ」。おいしそうに飲み、目を閉じて音楽に耳を傾けている。

Aさんの病室に行き、花の水替えをした。「あえー、きれいな花っこ。家でも咲いているなあ。だともきっと草だらけだべなあ」。次にコーヒー好きのTさんの病室へコーヒーを届ける。「来た来た、いつもありが

えんぴつ 四季

とない。ところで田植えは終わったべが。昔は米作り楽しかったなあ。作れば作るほどお金にな

たもんだ」。収穫の喜びを語る。Hさんの病室から、民謡の「おこさ節」と「秋田節」が聴こえてきた。以前一緒に歌った時に「演歌じゃないからそんなにコロコロこぶしを回すと駄目だ」と叱られた。この方の民謡は天下一品だ。

優しい物静かなMさんは、親、兄弟、子どものこと、自身の育った環境などを淡々と話す。退出時には決まって「長い間、おえの話しこ聞いてくれて、ありがとな」と手を握ってくれる。

ここでの時間は緊張の連続だが、なぜか心地よく、元気を頂く。そして自分らしく、素直に、感謝しながら生きることの大切さを教えていただく。また来るよ、と心でつぶやく。今日もありがたう。

青木 綾子(69) 秋田市下新城